

高知大学医学部附属病院 緩和ケアチームの活動報告

(2007年4月～2008年3月)

緩和ケアチーム

○近藤 恵子 北岡 智子 掛田 恭子 川崎 元敬
楠瀬 正彦 石田 健司 河原 三砂子 竹内 美幸
楠瀬 伴子 小林 道也

高知大学医学部附属病院では2006年7月に緩和ケアチーム（以下PCT）が発足し、現在では、麻酔科医、精神科医、整形外科医、リハビリテーション医、婦人科医、内科医、専従看護師、病棟・外来化学療法室看護師、薬剤師、栄養士、作業療法士、ソーシャルワーカーがPCT員として、がん患者・家族へのケアに携っている。昨年は81件の新規介入依頼がPCTに寄せられ、平均40人/日のがん患者・家族のケアに携っている。PCTへの介入依頼は、医師（61%）、看護師（31%）からがほとんどであり、主な依頼目的は、精神的苦痛の緩和、がん性疼痛の緩和、家族ケア、転院・退院調整となっている。介入対象患者は男性が6割を占め、50歳～70歳未満の年齢層に集中し、腫瘍分類は肺がんが最も多く、次いで頭頸部がん、胃がんの順となっている。PCTの介入は入院患者を中心としており、相談者・介入対象者のニーズに応じた全人的ケアの実践に努めている。なお、対象患者が退院した後は希望に応じ、がん相談部門を含む地域連携室との協働の下、外来での療養相談を実践している。また、当PCTの特徴としては、整形外科医、リハビリテーション医、作業療法士がチームに加わっていることから、骨転移に対する整形外科的評価と治療、がんリハビリテーション、在宅移行支援（住宅改修の検討も含む）にも力を注いでいる。そして、地域連携をチームの強化課題として掲げ、患者・家族に対する緩和ケアの継続や全人的ケアをめざし、関係医療福祉機関への情報提供を心がけている。最後に、当PCTは、緩和ケアの専門性やチーム活動という点において未熟であり、多くの課題を抱え模索しながら活動しているのが現状である。今回PCTの活動報告の機会を得たことにより、チームの活動状況や課題を振り返ることができた。今後は明らかになった課題をチームで検討し、質の高い緩和ケアの実践をめざしていきたいと考える。